

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 生理学 | 石田 裕二 | 2 | 1 | 前期 |
| 授業概要 | 生体機能の基礎的知識（生命活動の本質），呼吸，循環，消化，排泄，それらを調節する自律神経や内分泌系の働きを学習する 特に各種の障害に深く関係する神経生理学を重視した内容を展開する | | | |
| 到達目標 | 生体機能についてそのメカニズムの理解を深め，専門分野の学習が円滑に行うための基礎医学的知識を習得し，医学的視点からフィジカルアセスメントにつながる基礎的な知識を深めることができる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 概説 | 生命現象とは何か，人体の構造とその概略についてイメージできるようになる | | |
| 2 | 細胞 ① | 生命の原点である細胞の構造と機能についてその概略が理解できる | | |
| 3 | 細胞 ② | 分極，脱分極，再分極など細胞膜と生命現象の関係の概略を理解できる | | |
| 4 | 血液・体液 ① | 恒常性の維持や代謝機構に関与する血液・体液の組成や役割について理解できる | | |
| 5 | 血液・体液 ② | 血球成分・血漿成分について，構造・組成と機能が理解できる | | |
| 6 | 呼吸循環器 ① | 血液を送り出す心臓とガス交換の場である肺の構造と機能について理解できる | | |
| 7 | 呼吸循環器 ② | 刺激伝導系，肺循環と体循環について理解できる | | |
| 8 | 呼吸循環器 ③ | 呼吸器との関連，関連疾患について概略を理解できる | | |
| 9 | 呼吸循環器 ④ | 心疾患と肺疾患，呼吸に関わる酸塩基平衡について理解できる | | |
| 10 | 呼吸循環器 ⑤ | 心電図について概略が理解できるようになる | | |
| 11 | 泌尿器 ① | 腎臓の構造と機能について概略を理解できる | | |
| 12 | 泌尿器 ② | 腎臓の機能と恒常性の維持機能，酸塩基平衡の関係性を知る | | |
| 13 | 神経系 ① | 神経系の分類，構造と機能について理解できる | | |
| 14 | 神経系 ② | 中枢神経系と末梢神経系の形態的・機能的な分類ができるようになる | | |
| 15 | 神経系 ③ | 中枢神経系（脳・脊髄）の構造と機能の概略を説明できる | | |
| 16 | 神経系 ④ | 上位ニューロンと下位ニューロンについて理解できる | | |
| 17 | 神経系 ⑤ | 上行路と下行路について理解できる | | |
| 18 | 神経系 ⑥ | 脊髄反射の回路（筋紡錘の機能も含む）が理解できる | | |

| | | | |
|------|---|----------------------------------|--|
| 19 | 筋生理 ① | 筋の種類, 筋収縮のメカニズムについて概略を説明できる | |
| 20 | 筋生理 ② | 筋収縮に関わるエネルギー供給, 代謝について説明できる | |
| 21 | 筋生理と運動学 ① | 骨格筋の収縮と関節運動のイメージを構築できる | |
| 22 | 筋生理と運動学 ② | 神経障害と運動麻痺についてその概略を理解できる | |
| 23 | 内分泌 ① | ホルモンとは何か, その役割について理解できる | |
| 24 | 内分泌 ② | 内分泌に関わる臓器, 産生過程などを理解する | |
| 25 | 自律神経系 | ホルモンとともに恒常性の維持に関する機能を理解する | |
| 26 | 泌尿器 | 自律神経と排尿機構について神経学的に理解できる | |
| 27 | 消化器 ① | 消化器の構造と機能について概略が理解できる | |
| 28 | 消化器 ② | 消化酵素(化学的消化)の作用について理解できる | |
| 29 | 生体機能計測 ① | 脳波計, 筋電計データのとり方, 臨床的な意義について理解できる | |
| 30 | 生体機能計測 ② | 呼気ガス分析で何を評価するかを論理的に理解できる | |
| 教科書 | 生理学テキスト第8版 | 履修条件 | 電子教科書にて授業を進行する。PCを用意すること30回の講義なので、6回以上欠席すると定期試験を受験できない |
| 参考書 | ギャノン生理学 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | |
| 備考 | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|--|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 生理学演習 | 石田 裕二 | 1 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | 生理学実習では生理学で学んだ知識を具体的に演習を通じて体験し、臨床に必要不可欠な知識の理解を深める | | | |
| 到達目標 | 臨床現場に必要な基礎的な知識と技術（バイタルサインの計測など）を習得し、専門領域につながる技能を習得する | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 循環器系の計測 | 循環動態と血圧の関係を理解し医学的根拠を持って血圧を計測することができる | | |
| 2 | 心電図 ① | 心電図の基礎的なメカニズムを理解することができる | | |
| 3 | 心電図 ② | 標準12誘導と胸部単極誘導について臨床的意味を説明できるようになる | | |
| 4 | 心電図 ③ | 異常心電図と正常心電図を比較し、病的問題点を評価できるようになる | | |
| 5 | 心電図 ④ | 標準12誘導を具体的に計測し、その臨床的技術を習得する | | |
| 6 | 筋電図 ① | 筋電図の波形についてその意味を理解できる | | |
| 7 | 筋電図 ② | 筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる | | |
| 8 | 筋電図 ③ | 表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる | | |
| 9 | 筋電図 ④ | 誘発筋電計を用いてF波やH波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める | | |
| 10 | 筋電図 ⑤ | 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する | | |
| 11 | 呼吸器系 ① | 呼吸器疾患の臨床像とスパイログラムの関係を理解できる | | |
| 12 | 呼吸器系 ② | スパイログラムを用いた肺機能の計測を体験し理解を深める | | |
| 13 | 呼吸循環 ① | 有酸素運動と無酸素運動、ATポイントなどの意味を理解する | | |
| 14 | 呼吸循環 ② | 運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する | | |
| 15 | 感覚検査 | 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める | | |
| 教科書 | 生理学テキスト第8版 | 履修条件 | 電子教科書にて授業を進行する。PCを用意すること15回の講義なので、3回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | ギャノン生理学 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|-------------------------------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 老年期障害学 | 石田 裕二 佐藤 嶺 | 1 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | 老年期の特徴を理解し、我が国における老年医学、高齢者医療について理解できるよう講義を行う | | | |
| 到達目標 | 老年期の特徴を理解し、我が国における老年医学、高齢者医療について理解できる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 老年医学とリハビリテーションについて | 老年期医学とリハビリテーションの関係について理解できる | | |
| 2 | 老化と老年病の考え方 | 老化と老年病の違いについて理解できる | | |
| 3 | 加齢に伴う変化 ① | 老年期の生理機能形態学的変化について理解できる | | |
| 4 | 加齢に伴う変化 ② | 老年期の運動機能の変化について理解できる | | |
| 5 | 加齢に伴う変化 ③ | 加齢に伴う精神心理面・認知機能の変化について理解できる | | |
| 6 | 性差医療 | 男性及び女性から見た寿命、平均寿命について理解できる | | |
| 7 | 高齢者の定義および人口動態 | 高齢者の定義および人口動態について理解できる | | |
| 8 | 高齢者の機能評価 | 高齢者の機能評価について理解できる | | |
| 9 | 高齢者と薬物療法 | 高齢者と薬物療法の関係性や問題点について理解できる | | |
| 10 | 老年期症候群について ① | 代表的な老年期症候群について理解できる | | |
| 11 | 老年期症候群について ② | 代表的な老年期症候群について理解できる | | |
| 12 | 循環器疾患について ① | 代表的な循環器疾患について理解できる | | |
| 13 | 循環器疾患について ② | 代表的な循環器疾患について理解できる | | |
| 14 | 高齢者の感染症 | 高齢者に特有の感染症について理解できる | | |
| 15 | 高齢者の終末期医療について | 緩和ケア・ホスピスなど終末期医療と高齢者との関係を理解できる | | |
| 教科書 | 老年学 標準理学療法学・作業療法学 | 履修条件 | 15回の講義なので3回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|--|--|-------------------------------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| リハビリテーション医学 | 石田 裕二 | 1 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | リハビリテーション医学が対象とする疾患，脳卒中，頭部外傷，脊髄損傷，脳性麻痺，変性疾患，切断等についてそれらを理解し，リハビリテーションについて考えられるよう講義を行う | | | |
| 到達目標 | リハビリテーション医学が対象とする疾患，脳卒中，頭部外傷，脊髄損傷，脳性麻痺，変性疾患，切断等についてそれらを理解できる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | リハビリテーションを学ぶにあたり，基本的な用語やポイントについて理解できる | | |
| 2 | 介入時期別のリハビリテーション | 急性期，回復期，維持期のリハビリテーションについて目的や方針を理解できる | | |
| 3 | 地域・在宅リハビリテーション | 訪問・通所リハビリテーションで多くみられる疾患・障害とそれらに対する介入，目的について理解できる | | |
| 4 | 脳卒中の疾患概念 | CI(脳梗塞)，CH(脳出血)，SAH(クモ膜下出血)等について理解できる | | |
| 5 | 脳卒中の疫学・予防 | Metabolic syndrome(代謝症候群)等について理解できる | | |
| 6 | 脳卒中急性期ベッドサイドリハ | CVA の多様なリハビリテーションについて理解ができる | | |
| 7 | 廃用症候群・誤用症候群 | 運動器全般への影響や恒常性の維持能力への影響について理解できる | | |
| 8 | 高次脳機能障害 ① | 失語の分類や症状を理論的に理解できる | | |
| 9 | 高次脳機能障害 ② | 失行・失認について理解できる | | |
| 10 | 高次脳機能障害 ③ | 半側空間無視等，注意障害について理解できる | | |
| 11 | 認知症 | 認知症の分類，症状について理解し，患者への介入法の概要を理解できる | | |
| 12 | 外傷 | 脳挫傷，硬膜外血腫，慢性硬膜下血腫，脊髄損傷等の概要を理解できる | | |
| 13 | 小児科領域の障害 | 発達障害，CP，MD(筋ディストロフィー)，SBO(二分脊椎)等について理解できる | | |
| 14 | 変性疾患 | PD，ALS，SCDについて理解できる | | |
| 15 | 整形外科疾患 | RA，OA，FF(大腿骨々折)，切断・離断，肩関節障害などについて理解できる | | |
| 教科書 | PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論 要点整理と用語解説 改訂第3版 | 履修条件 | 15回の講義なので3回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | ・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|--|--|------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 理学療法概論 | 工藤達也 | 2 | 1 | 前期 |
| 授業概要 | 理学療法の定義と歴史を理解し医療ならびに社会全体における理学療法の位置づけ、基本的な理学療法の理論、知識と技術について把握する。また、理学療法を施行する上で関わる障害や疾患について学ぶ | | | |
| 到達目標 | 理学療法・理学療法士に関する基本的知識を理解できる 理学療法の定義や対象、手段、理学療法士の役割について理解を深める | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 理学療法の歴史・定義 理学療法とリハビリテーション | 理学療法の歴史と定義、理学療法とリハビリテーションの関連性を学ぶ | | |
| 2 | 理学療法と法律・制度 | 理学療法に関連する法律や制度を学ぶ | | |
| 3 | 理学療法の対象となる障害 ① | 理学療法の対象となる障害を学ぶ(関節可動域制限) | | |
| 4 | 理学療法の対象となる障害 ② | 理学療法の対象となる障害を学ぶ(筋力低下) | | |
| 5 | 理学療法の対象となる障害 ③ | 理学療法の対象となる障害を学ぶ(疼痛・感覚障害) | | |
| 6 | 理学療法の対象となる障害 ④ | 理学療法の対象となる障害を学ぶ(持久力低下) | | |
| 7 | 理学療法の対象となる障害 ⑤ | 理学療法の対象となる障害を学ぶ(バランス能力低下) | | |
| 8 | 理学療法の対象となる疾患 ① | 理学療法の対象となる疾患について学ぶ(運動器疾患) | | |
| 9 | 理学療法の対象となる疾患 ② | 理学療法の対象となる疾患について学ぶ(中枢神経疾患) | | |
| 10 | 理学療法の対象となる疾患 ③ | 理学療法の対象となる疾患について学ぶ(呼吸器疾患) | | |
| 11 | 理学療法の対象となる疾患 ④ | 理学療法の対象となる疾患について学ぶ(循環・代謝疾患) | | |
| 12 | 理学療法の対象となる疾患 ⑤ | 理学療法の対象となる疾患について学ぶ(がん) | | |
| 13 | 病期、領域でみる理学療法 | 様々な病期・分野での理学療法について学ぶ | | |
| 14 | 理学療法の流れ(理学療法過程) ICFについて | 理学療法が行われる際の一連の流れ、臨床思考過程について学ぶ | | |
| 15 | 理学療法の治療手段 ～運動療法①～ | 理学療法の治療手段である運動療法について学ぶ(関節可動域訓練) | | |
| 16 | 理学療法の治療手段 ～運動療法②～ | 理学療法の治療手段である運動療法について学ぶ(筋力増強訓練) | | |
| 17 | 理学療法の治療手段 ～運動療法③～ | 理学療法の治療手段である運動療法について学ぶ(持久力増強訓練) | | |
| 18 | 理学療法の治療手段 ～運動療法④～ | 理学療法の治療手段である運動療法について学ぶ(協調運動訓練) | | |
| 19 | 理学療法の治療手段 ～物理療法①～ | 理学療法の治療手段である物理療法について学ぶ(温熱療法①) | | |
| 20 | 理学療法の治療手段 ～物理療法②～ | 理学療法の治療手段である物理療法について学ぶ(温熱療法②) | | |
| 21 | 理学療法の治療手段 ～物理療法③～ | 理学療法の治療手段である物理療法について学ぶ(寒冷療法・光線療法) | | |
| 22 | 理学療法の治療手段 ～物理療法④～ | 理学療法の治療手段である物理療法について学ぶ(電気刺激療法) | | |

| | | | |
|------|---|---|--------------------------------|
| 23 | 理学療法の治療手段 ～補装具療法①～ | 理学療法の治療手段である補装具療法について学ぶ(義肢・装具) | |
| 24 | 理学療法の治療手段 ～補装具療法②～ | 理学療法の治療手段である補装具療法について学ぶ(車椅子・杖) | |
| 25 | 理学療法の治療手段 ～ADL・住環境整備①～ | 理学療法の治療手段であるADL・住環境整備について学ぶ(動作介助) | |
| 26 | 理学療法の治療手段 ～ADL・住環境整備②～ | 理学療法の治療手段であるADL・住環境整備について学ぶ(住宅改修・評価) | |
| 27 | 理学療法と管理, 医療事故 | 理学療法場面でのリスク管理や感染予防, インシデント, ヒヤリ・ハットについて学ぶ | |
| 28 | 理学療法と教育 ① | 理学療法におけるエビデンスの重要性, 研究の意義について学ぶ | |
| 29 | 理学療法と教育 ② | 理学療法(士)の教育体系の必要性について学ぶ | |
| 30 | 理学療法士に求められる資質 接遇・コミュニケーション | 理学療法士に求められる資質, 対象者とのコミュニケーション方法について学ぶ | |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する | 履修条件 | 30回の講義なので、6回以上欠席すると定期試験を受験できない |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | |
| 備考 | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 基礎理学療法Ⅰ | 工藤達也 | 2 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | 理学療法の基礎となる解剖学・生理学・運動学分野の総合的理解を深める | | | |
| 到達目標 | 理学療法の基礎知識を理解することができる 基本的な運動療法を解剖学, 生理学, 運動学, 病理学的に理解することができる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | オリエンテーション 運動療法の基礎 ① | オリエンテーション, 運動学の基礎知識を確認し, 運動療法に関する基本を整理する | | |
| 2 | 運動療法の基礎 ② | 運動学の基礎知識を確認し, 運動療法に関する基本を整理する | | |
| 3 | 骨・関節と筋肉 ① | 骨・関節と筋肉の基礎知識を確認し, 骨・関節と筋肉の運動療法に関する基本事項を整理する | | |
| 4 | 骨・関節と筋肉 ② | 骨・関節と筋肉の基礎知識を確認し, 骨・関節と筋肉の運動療法に関する基本事項を整理する | | |
| 5 | 運動と呼吸・循環・代謝 ① | 運動と呼吸・循環・代謝の基礎知識を確認し, 運動と呼吸・循環・代謝の運動療法に関する基本事項を整理する | | |
| 6 | 運動と呼吸・循環・代謝 ② | 運動と呼吸・循環・代謝の基礎知識を確認し, 運動と呼吸・循環・代謝の運動療法に関する基本事項を整理する | | |
| 7 | 運動制御と運動学習 ① | 運動制御と運動学習の基礎知識を確認し, 運動制御と運動学習の運動療法に関する基本事項を整理する | | |
| 8 | 運動制御と運動学習 ② | 運動制御と運動学習の基礎知識を確認し, 運動制御と運動学習の運動療法に関する基本事項を整理する | | |
| 9 | 関節と筋肉に対する アプローチ ① | 関節と筋肉に対する運動療法の実際について基本事項を理解する | | |
| 10 | 関節と筋肉に対する アプローチ ② | 関節と筋肉に対する運動療法の実際について基本事項を理解する | | |
| 11 | 脳・神経障害に対する アプローチ ① | 脳・神経障害に対する運動療法の実際について基本事項を理解する | | |
| 12 | 脳・神経障害に対する アプローチ ② | 脳・神経障害に対する運動療法の実際について基本事項を理解する | | |
| 13 | 協調動作とバランス ① | 協調動作とバランスに対する運動療法の実際について基本事項を理解する | | |
| 14 | 協調動作とバランス ② | 協調動作とバランスに対する運動療法の実際について基本事項を理解する | | |
| 15 | 姿勢障害と歩行障害に 対する運動療法 ① | 姿勢障害と歩行障害に対する運動療法の実際について基本事項を理解する | | |
| 16 | 姿勢障害と歩行障害に 対する運動療法 ② | 姿勢障害と歩行障害に対する運動療法の実際について基本事項を理解する | | |
| 17 | 運動器障害の評価と 理学療法 ① | 運動器障害の評価と治療のつながりについて理解する | | |

| | | | |
|------|--|---|---------------------------------|
| 18 | 運動器障害の評価と理学療法 ② | 運動器障害の評価と治療のつながりについて理解する | |
| 19 | 脊椎疾患・脊髄疾患の病態像 ① | 脊椎・脊髄疾患の病態像, 評価, 治療手順の基本を理解する | |
| 20 | 脊椎疾患・脊髄疾患の病態像 ② | 脊椎・脊髄疾患の病態像, 評価, 治療手順の基本を理解する | |
| 21 | 腰痛のリハビリテーション ① | 頸椎疾患, 腰部脊髄管狭窄症, 腰痛症の病態像, 評価, 治療手技を理解する | |
| 22 | 腰痛のリハビリテーション ② | 頸椎疾患, 腰部脊髄管狭窄症, 腰痛症の病態像, 評価, 治療手技を理解する | |
| 23 | 下肢の運動器疾患に対する評価と理学療法 ① | 大腿骨頸部骨折, 変形性股関節症などの代表的疾患の病態, 評価, 治療手順を理解する | |
| 24 | 下肢の運動器疾患に対する評価と理学療法 ② | 膝関節周囲の骨折, 変形性膝関節症などの代表的疾患の病態, 評価, 治療手順を理解する | |
| 25 | 下肢の運動器疾患に対する評価と理学療法 ③ | 足関節周囲の骨折, 足部変形などの代表的疾患の病態, 評価, 治療手順を理解する | |
| 26 | 関節リウマチの評価と理学療法 ① | 関節リウマチの代表的な評価と, その治療手順を理解する | |
| 27 | 関節リウマチの評価と理学療法 ② | 関節リウマチの代表的な評価と, その治療手順を理解する | |
| 28 | 末梢神経損傷の評価と理学療法 ① | 主な神経損傷の評価と, その治療手順を理解する | |
| 29 | 末梢神経損傷の評価と理学療法 ② | 主な神経損傷の評価と, その治療手順を理解する | |
| 30 | スポーツ外傷の評価と理学療法 | 靭帯損傷・半月板損傷の病態, 評価, 治療手順を理解する | |
| 教科書 | 資料を配布する | 履修条件 | 30回の講義なので, 6回以上欠席すると定期試験を受験できない |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず, 予習復習を怠らないこと |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで, 適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | |
| 備考 | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|--------------------------------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 理学療法研究法 | 工藤 達也 | 1 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | 理学療法における研究方法について意義を知り、その方法を理解できるよう講義演習を行う | | | |
| 到達目標 | 理学療法における研究方法について意義を知り、その方法を理解できる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 研究とは | 研究の意義や方法についてガイダンスを受け、全体像をとらえる | | |
| 2 | 仮説について | 仮説立てについて理解し、実践できる | | |
| 3 | 統計学から見る研究 ① | 量的研究の実験デザインや方法について理解する | | |
| 4 | 統計学から見る研究 ② | 量的研究の統計処理、解釈、考察や研究の連続性などについて理解する | | |
| 5 | 統計学から見る研究 ③ | 質的研究の実験デザインや方法について理解する | | |
| 6 | 統計学から見る研究 ④ | 質的研究の統計処理、解釈、考察や研究の連続性などについて理解する | | |
| 7 | 研究の実際 ① | 実際の研究について講義を聞き理解することができる | | |
| 8 | 研究の実際 ② | 実際の研究について講義を聞き理解することができる | | |
| 9 | 研究の実際 ③ | 実際の研究について講義を聞き理解することができる | | |
| 10 | 研究の実際 ④ | 実際の研究について講義を聞き理解することができる | | |
| 11 | 研究の実際 ⑤ | 実際の研究について講義を聞き理解することができる | | |
| 12 | 研究計画を立てる ① | 研究計画を実際に立てることができる | | |
| 13 | 研究計画を立てる ② | 研究計画を実際に立てることができる | | |
| 14 | 研究計画を立てる ③ | 研究計画を実際に立てることができる | | |
| 15 | 研究計画を立てる ④ | 研究計画を実際に立てることができる | | |
| 教科書 | 資料を配布する | 履修条件 | 15回の講義なので、3回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | 統計フリーソフト「R」に関する書籍・プリントを参考にすることがある | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|--|--|--------------------------------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 地域理学療法演習Ⅰ | 工藤 達也 | 1 | 1 | 前期 |
| 授業概要 | 在宅において医療・福祉サービスを必要とする対象者（特に高齢者）の医学的問題点に触れ、函館市、道南地域のいける在宅リハビリテーションの重要性について論じる | | | |
| 到達目標 | 理学療法士・作業療法士の地域活動についてその概略が理解できるようになる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 総論 ① | 地域リハビリテーションの概略について理解できる | | |
| 2 | 総論 ② | 函館市、道南地域の医療・福祉がどのように展開されているか理解できる | | |
| 3 | 総論 ③ | 函館市、道南地域の地域医療、在宅リハビリテーションの必要性が理解できる | | |
| 4 | 総論 ④ | 様々な障がいを持つ対象者に対する在宅リハにおけるPT・OTの業務や多職種連携について理解できる | | |
| 5 | 高齢者の心身機能 ① | ロコモティブシンドロームとは何かが理解できる | | |
| 6 | 高齢者の心身機能 ② | サルコペニアとは何かが理解できる | | |
| 7 | 高齢者の心身機能 ③ | フレイルとは何かが理解できる | | |
| 8 | 高齢者の心身機能 ④ | 廃用症候群とは何かが理解できる | | |
| 9 | 高齢者の心身機能 ⑤ | 認知症の病理や症状の概略が理解できる | | |
| 10 | 高齢者の心身機能 ⑥ | 各種心身の医学的問題点への対処についてその概略が理解できる | | |
| 11 | 健康寿命 ① | 健康な高齢者の身体機能について理解できる | | |
| 12 | 健康寿命 ② | 筋力低下を来している在宅のクライアントに対する理学療法について理解できる | | |
| 13 | 健康寿命 ③ | 心肺機能が低下している在宅のクライアントに対する理学療法について理解できる | | |
| 14 | 健康寿命 ④ | 内部障害（悪性腫瘍、糖尿病など）により心身機能の低下を来している在宅のクライアントに対する理学療法について理解できる | | |
| 15 | 健康寿命 ⑤ | 予防的リハビリテーションの目的や効果について理解できる | | |
| 教科書 | 資料を配布する | 履修条件 | 15回の講義なので、3回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|--|---|------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 解剖学 | 千葉 馨 | 2 | 1 | 前期 |
| 授業概要 | 人体の部位名称及び働きについて理解できるよう講義を行う | | | |
| 到達目標 | 人体の部位名称及び働きについて理解を深め 疾患や障害を医学的根拠をもとに解釈できるようになる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 解剖学総論 ① 入門 | 人体の部位名称を学習し、理学療法・作業療法に必要な解剖学的知識のイメージが理解できる | | |
| 2 | 解剖学総論 ② 発生学 | 受精卵から卵割・胚葉の形成、細胞、組織、臓器について系統的に理解できる | | |
| 3 | 解剖学総論 ③ 人体の概容 | 全身の筋骨格系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、神経系、内分泌系、特殊感覚器系など、大まかな位置関係や形状、機能のイメージを学習し理解できる | | |
| 4 | | | | |
| 5 | 中枢神経と末梢神経 | 中枢神経系（脳・脊髄）と末梢神経系（脳神経・脊髄神経）について区分、形状、大まかな機能などを理解できる | | |
| 6 | 末梢神経と骨格筋の関係 | 腕・腰神経叢の構造、筋の種類、末梢神経の筋支配について概略が理解できる | | |
| 7 | 中枢神経内の伝導路と末梢神経 | 上位ニューロンと下位ニューロン 上行路と下行路 錐体路と錐体外路 外側運動系と内側運動系 遠心路と求心路 交感神経と副交感神経などの意味を学習し、全身のNeural System の概要が理解できる | | |
| 8 | | | | |
| 9 | 頭頸部の筋骨格系の構造 | 頭部、頸部の骨格構造（頭蓋骨・頸椎）、脳神経に支配される各筋について学習し、理解を深めることができる | | |
| 10 | | | | |
| 11 | 上肢の骨格系 | 上肢の骨の形状、数、関節の形状と運動方向などを学習し理解を深める | | |
| 12 | | | | |
| 13 | 上肢の筋系 | 上肢の各筋の特徴（形状 起始・停止 支配神経など）を学習し、理解を深める | | |
| 14 | | | | |
| 15 | 体幹の骨格系 | 胸椎・腰椎 骨盤や肋骨の形状、生理的前弯・後弯など、体幹の骨格系の特徴を理解できる | | |
| 16 | | | | |
| 17 | 体幹の筋系 | 体幹の各筋の特徴（形状 起始・停止 支配神経など）を学習し、理解を深める また、付随する概念（呼吸筋の運動学、同側回旋・対側回旋の筋など）をイメージし理解を深める | | |
| 18 | | | | |
| 19 | 下肢の骨格系 | 下肢の骨の形状、数、関節の形状と運動方向などを学習し理解を深める | | |
| 20 | | | | |
| 21 | 下肢の筋系 | 下肢の各筋の特徴（形状 起始・停止 支配神経など）を学習し、理解を深める | | |
| 22 | | | | |
| 23 | 循環器 ① | 心臓の構造（形状 位置 心房・心室 弁構造 刺激伝導系 心筋の構造など）が理解できる | | |
| 24 | 循環器 ② | 動脈と静脈 大循環と小循環 分岐する動静脈の形状と役割 各臓器の脈管 などの概要が理解できる | | |

| | | | |
|------|--|---|---|
| 25 | 呼吸器 ① | 気管 気管支 肺の位置や形状を理解できる 気管支の分岐角度や肺胞の構造など詳細にわたる構造も理解できる | |
| 26 | 呼吸器 ② | 呼吸器に関わる循環系（肺動脈, 肺静脈, 固有気管支動脈など）の構造と, それらの機能（役割）を理解できる | |
| 27 | 消化器 | 消化器に属する各臓器の構造（位置・形状・重量など）や機能の概要について理解できる | |
| 28 | 泌尿器 | 腎臓, 膀胱, 尿管, 尿道など, 泌尿器に属する臓器の位置や形状などについて理解できる | |
| 29 | 内分泌器 | 内分泌に関わる各臓器の位置や形状, 特に機能なども含めて理解できる | |
| 30 | 特殊感覚器 | 特殊感覚に分類される嗅覚, 視覚, 聴覚, 味覚の場である眼, 耳, 鼻, 舌の構造と機能を理解できる | |
| 教科書 | 生体の仕組み標準テキスト 第3版 | 履修条件 | 電子教科書にて授業を進行する PCを用意すること30回の講義なので, 6回以上欠席すると定期試験を受験できない |
| 参考書 | グレイ解剖学第2版など | 留意事項等 | できるだけ欠席せず, 予習復習を怠らないこと |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで, 適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | |
| 備考 | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|---------------------------------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 解剖学演習 | 千葉 馨 | 1 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | 脳・神経系, 血管系や内臓系について, 先行する解剖学の知識をさらに深めることができるよう講義・演習を行う | | | |
| 到達目標 | 理学療法や作業療法において, 治療的介入法の基盤となる中枢神経系・脈管系・内臓系の構造と機能について理解できる 様々な病的な症状・徴候と解剖学の関連性を認識できる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 頭部の特徴: 構成する骨格, 筋肉, 血管, 神経 | 頭部を構成する骨格, 筋肉, 血管, 神経について理解できる | | |
| 2 | 髄膜と脳脊髄液, 脳室系 脳の血管 | 内頸動脈系と椎骨動脈系 動脈輪 脳室と脳脊髄液の循環経路 について理解できる | | |
| 3 | 脳幹: 中脳-橋-延髄, | 脳幹部 (中脳-橋-延髄) の構造と機能 各種伝導路などについて理解できる | | |
| 4 | 小脳と間脳: 小脳, 視床, 視床下部 | 小脳, 間脳 (視床, 視床下部) の構造と機能 について理解できる | | |
| 5 | 終脳: 大脳皮質, 大脳基底核 大脳辺縁系 | 大脳皮質, 大脳基底核, 大脳辺縁系について理解できる | | |
| 6 | 大脳の白質: 投射線維, 連合・交連線維 | 投射線維, 連合線維, 交連線維について理解し, 中枢神経内のneural circuit の概要を理解できる | | |
| 7 | 脳神経の種類と特徴 | 脳神経とは何か, その構造と機能について理解できる | | |
| 8 | 脈管系 ① | 動脈, 静脈, リンパについて理解できる | | |
| 9 | 脈管系 ② | 呼吸器・循環器 (心臓, 肺) の構造と相互機能関係について理解できる | | |
| 10 | 脈管系 ③ | 消化器に關与する脈管系について理解できる | | |
| 11 | 脈管系 ④ | 泌尿器系 (腎臓, 膀胱) に關わる神経と脈管について理解できる | | |
| 12 | 内臓系解剖学 ① | 心臓, 肺の解剖について復習し, 聴診演習等で確認できる | | |
| 13 | 内臓系解剖学 ② | 食道から直腸までの消化器の構造と機能を理解できる | | |
| 14 | 内臓系解剖学 ③ | 肝臓・胆のう・膵臓等の構造と機能について理解できる | | |
| 15 | 内臓系解剖学 ④ | 門脈系の循環, 胎生期の循環器の構造について理解できる | | |
| 教科書 | 生体の仕組み標準テキスト 第3版 | 履修条件 | 15回の講義なので, 3回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | グレイ解剖学第2版など | 留意事項等 | できるだけ欠席せず, 予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | ・15回の講義のなかで, 適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|-------|--------------------------------|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 地域理学療法学演習Ⅱ | 羽澤 晃士 | 1 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | 地域リハビリテーションを展開するうえで必要不可欠な臨床技術を実践的立場から論じ、演習を通じて論じる | | | |
| 到達目標 | 具体的な在宅リハビリテーションの業務を理解し、実践できるようになる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 在宅の理学療法 ① | 起居活動の制限に対する地域理学療法介入の目的を理解できる | | |
| 2 | 在宅の理学療法 ② | IADLに注目した地域理学療法介入の目的を理解できる | | |
| 3 | 在宅の理学療法 ③ | 屋内外での移動制約に対する地域理学療法介入の目的を理解できる | | |
| 4 | QOLのアプローチ | QOLの評価、QOLの向上を目的とした理学療法士の取り組みなどを理解できる | | |
| 5 | 実習 ① | 模擬患者の寝返り、起き上がりの援助方法を習得する | | |
| 6 | 実習 ② | 模擬患者の立ち上がり、バランスに対する援助方法を習得する | | |
| 7 | 実習 ③ | 模擬患者の屋内移動、排泄動作、入浴動作に対する援助方法を習得する | | |
| 8 | 住環境 ① | バリアフリーとユニバーサルデザインの理念について理解できる | | |
| 9 | 住環境 ② | 高齢者に発症率が高い疾患による障害に対応する住環境について理解できる | | |
| 10 | 住環境 ③ | 長期臥床者に対応する住環境について理解できる | | |
| 11 | 臨床的な判断 | 緊急性が高い状況とは何かが理解できる | | |
| 12 | 在宅リハでのPE・PA | フィジカルイグザミネーション (PE) とフィジカルアセスメント (PA) の概略を理解できる | | |
| 13 | 多職種連携 | フィジカルアセスメントで得た情報をどのように活用するかを理解できる | | |
| 14 | 記録と報告 ① | 医師からの指示 (処方箋) の管理、診療記録や各種書類の書き方など、在宅リハにおける具体的なPT・OTの記録・報告業務について理解できる | | |
| 15 | 記録と報告 ② | 在宅リハにおける記録・報告書の書き方、多職種への情報提供などの意義と方法について理解できる | | |
| 教科書 | 資料を配布する | | 履修条件 | 15回の講義なので、3回以上欠席すると定期試験を受験できない |
| 参考書 | 検討中 | | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと |
| 成績評価 | ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 運動学 | 羽澤 晃士 平塚 健太 | 2 | 1 | 前期 |
| 授業概要 | 運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、その理論的基盤をなす専門基礎科目である。本授業科目では、正常な身体運動を理解するうえで必要な運動器の基本構造と機能を学ぶ。さらに、身体各部位の関節構造と機能を関節運動と関連づけて学習し、機能解剖学的視点から四肢、脊柱・体幹、頭部における各関節運動の仕組みを深める | | | |
| 到達目標 | リハビリテーションの対象となる運動障害のメカニズムを理解するために、身体運動を遂行するうえで必要な運動器（筋骨格系・神経系）の基本構造と機能を学び、四肢、脊柱・体幹、頭部における各関節運動の仕組みについて説明できるようになる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | オリエンテーション 運動学とは | 本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法等の説明と、運動学という学問領域について理解できる | | |
| 2 | 骨・関節の構造と機能 | 骨・関節の基本構造、可動関節の分類、骨運動と関節包内運動、運動軸と運動面が理解できる | | |
| 3 | 骨格筋の構造と機能 | 骨格筋の構造、筋収縮機序、筋線維の種類、運動単位、筋の収縮様式と働きが理解できる | | |
| 4 | 神経の構造と機能 | 神経系の構造、運動の中枢神経機構を理解できる | | |
| 5 | 顔面と頭部の運動学 | 顎関節の構造、関節運動、筋の作用が理解できる 顔面の表情に関わる筋の作用が理解できる | | |
| 6 | 脊柱・体幹の運動学 ① | 脊柱全体の基本構造と機能が理解できる 頸椎の構造、頸部の運動と関与する筋の作用が理解できる | | |
| 7 | 脊柱・体幹の運動学 ② | 胸郭の構造、胸部の運動と関与する筋の作用が理解できる 腰椎の構造、腰部の運動と関与する筋の作用が理解できる | | |
| 8 | 上肢の運動学 ① | 肩複合体の構造、関節運動、関節運動における靭帯および筋の作用が理解できる | | |
| 9 | 上肢の運動学 ② | | | |
| 10 | 上肢の運動学 ③ | 肘関節・前腕の構造、関節運動、関節運動における靭帯および筋の作用が理解できる | | |
| 11 | 上肢の運動学 ④ | 手関節・手指の構造、関節運動、関節運動における靭帯および筋の作用が理解できる | | |
| 12 | 下肢の運動学 ① | 股関節の構造、関節運動、関節運動における靭帯および筋の作用が理解できる | | |
| 13 | 下肢の運動学 ② | | | |
| 14 | 下肢の運動学 ③ | 膝関節の構造、関節運動、関節運動における靭帯および筋の作用が理解できる | | |
| 15 | 下肢の運動学 ④ | 足関節・足部の構造、関節運動、関節運動における靭帯および筋の作用が理解できる | | |

| | | | | |
|------|---|-----------------------------------|-------|--------------------------------|
| 16 | 姿勢 ① | 姿勢とは何かを理解し、重心と力学的安定性の関係について知識を深める | | |
| 17 | 姿勢 ② | 安静立位姿勢とその制御について知識を深める | | |
| 18 | 姿勢 ③ | 外乱動揺下での立位姿勢制御、姿勢制御における感覚機構を理解する | | |
| 19 | 姿勢 ④ | 予測的姿勢制御機構について具体的に理解できる | | |
| 20 | 歩行 ① | 正常歩行の運動学的なパターン特性について理解できる | | |
| 21 | 歩行 ② | | | |
| 22 | 歩行 ③ | 正常歩行の運動力学的（物理学的）な特性について理解できる | | |
| 23 | 歩行 ④ | 正常歩行の運動生理学的な特性について理解できる | | |
| 24 | 運動学習 ① | 運動学習とは何か、その基本概念について理解できる | | |
| 25 | 運動学習 ② | 運動学習の成果を左右する要因について理解できる | | |
| 26 | 運動学習 ③ | 運動学習の成果を測定する方法を具体的に理解できる | | |
| 27 | 生体力学 ① | 生体力学におけるキネマティクスについて理解できる | | |
| 28 | 生体力学 ② | | | |
| 29 | 生体力学 ③ | 生体力学を活用した身体動作の分析方法について理解できる | | |
| 30 | 生体力学 ④ | | | |
| 教科書 | 運動学（15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト） | | 履修条件 | 30回の講義なので、6回以上欠席すると定期試験を受験できない |
| 参考書 | 基礎運動学 | | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|---|--------------------------------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 運動学演習 | 羽澤 晃士 平塚 健太 | 1 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | 本実習では、運動学で身につけた知識をもとに、種々の身体運動・動作を実際に観察、計測して、身体運動・動作の仕組みについてさらに理解を深める。実習はテーマ毎に小グループに分かれて行い、分析結果をグループ内で討議してレポートにまとめる。 | | | |
| 到達目標 | リハビリテーションの対象となる運動・動作障害に対する評価を実践するために必要な運動・動作の観察および計測方法について学び、正常な運動・動作を分析できるようになるとともに、分析した結果を説明できるようになる。 | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | ガイダンス ① | 本科目の概要や学習目標、内容、スケジュールの説明を受けて、学習方法や実習レポートの書き方について理解を深める | | |
| 2 | ガイダンス ② | | | |
| 3 | 体表解剖 ① | 上肢、下肢、体幹の骨ならびに筋の触診を行い、各部位の形状、骨の形・ランドマーク、筋の走行、筋の起始停止、筋腹や腱の形状、求心性・遠心性収縮時における筋緊張と張力の関係などを確認し理解を深める | | |
| 4 | 体表解剖 ② | | | |
| 5 | 体表解剖 ③ | | | |
| 6 | 項目別実習 ① | 小グループを結成し、粗大な筋力の把握、静的姿勢から動的姿勢へ移行するときの姿勢分析、合目的動作（寝返り・起き上がり・座位・立位・歩行）における動作分析などを演習し、健全な成人の運動パターンについての知識を深め、病態運動学等の専門科目につながる基礎的な知識が理解できる | | |
| 7 | 項目別実習 ② | | | |
| 8 | 項目別実習 ③ | | | |
| 9 | 項目別実習 ④ | | | |
| 10 | 項目別実習 ⑤ | | | |
| 11 | 項目別実習 ⑥ | | | |
| 12 | 項目別実習総合指導 ① | 小グループで計測した項目別実習のデータを分析して、運動学的視点からの考察を述べ（発表し）、ディスカッションを行うことで、人体の動きを臨床的視点で理解できるようになる | | |
| 13 | 項目別実習総合指導 ② | | | |
| 14 | 項目別実習総合指導 ③ | | | |
| 15 | 項目別実習総合指導 ④ | | | |
| 教科書 | 運動学（15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト） | 履修条件 | 15回の講義なので、3回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | 基礎運動学 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|-------|--------------------------------|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 英語演習 I | 濱田 貴文 | 2 | 1 | 前期 |
| 授業概要 | 日常で使用する基本的な単語や文について修得できるよう講義演習を行う | | | |
| 到達目標 | 基本的な単語や文について修得し、簡単な会話ができるようになる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 英会話のポイントについて | am/is/are (be動詞の疑問文) について理解できる | | |
| 2 | 現在進行形について | I am doing などについて理解し、いろいろな動詞を使用して応用できる | | |
| 3 | 単純現在形について | I do/work/likeなど単純現在形および否定文について理解し応用できる | | |
| 4 | 単純現在形の疑問文 | Do you…?を使った文を理解でき、応用できる | | |
| 5 | 動詞について ① | 様々な動詞について理解し、記憶し、使用できる | | |
| 6 | 動詞について ② | 様々な動詞について理解し、記憶し、使用できる | | |
| 7 | 現在進行形と単純進行形について | I am doing /I doなどについて理解し、いろいろな動詞を使用して応用できる | | |
| 8 | I have とI've got… | 自分が今持っているものについて説明できる | | |
| 9 | be動詞の過去形について | was were について自分を説明できる | | |
| 10 | 単純過去形について | working/got/went/などについて自分がしたことを説明できる | | |
| 11 | 単純過去形の否定文と疑問文について | I didn't…? Did you…?について理解し、使用できる | | |
| 12 | 形容詞について | いろいろな形容詞について記憶し使用できる | | |
| 13 | 現在過去形について | I was doing 過去進行形について自分がしていたことを過去形で説明できる | | |
| 14 | 過去進行形と単純過去形について | I was doing/I did を使って動詞を変化させて使用できる | | |
| 15 | 現在完了形について | Have you ever…?を用いて過去の経験について肯定もしくは否定で答える | | |
| 教科書 | 「言い出し表現」と「動詞フレーズ」で英語は2秒で話せる | | 履修条件 | 15回の講義なので、3回以上欠席すると定期試験を受験できない |
| 参考書 | 検討中 | | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|-------|--------------------------------|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 英語演習Ⅱ | 濱田 貴文 | 2 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | 英語Ⅰから発展させ、さらに会話に応用できるように講義演習を行う また、リハビリテーションに関する英語論文に慣れ、概要が把握できるように講義演習を行う | | | |
| 到達目標 | 講義内容を理解し、記憶しながら会話ができるようになる 英語論文を検索し、その論文の概略を把握することができるようになる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 現在完了形について | How long have you...? 現在までの動作や状態の継続について自分がしてきたことを説明できる | | |
| 2 | for since ago | 「～の間～から（今まで）」動作が継続する機関についての分を使用できる | | |
| 3 | 医療における動詞・形容詞 | 医療における動詞・形容詞について理解し使用できる | | |
| 4 | 医療における物品・動作 | 医療における物品・動作について理解し使用できる | | |
| 5 | 現在完了形と単純過去形 ① | I have done とI didについて自分に関する過去の事柄を表すことができる | | |
| 6 | 現在完了形と単純過去形 ② | just, already, yetを用いることができる | | |
| 7 | 現在完了形と単純過去形 ③ | I've lost my key. I lost my key last week. すでに終了している事柄について使用できる | | |
| 8 | 受動態 | is done/ was done /is being done /hasbeing done を使い分けることができる | | |
| 9 | 現在形と過去形における助動詞について | be/have/doについて使用し文章を述べられる | | |
| 10 | 規則変化動詞と不規則変化動詞について | make/break/cutなど変化させて使用できる | | |
| 11 | 英語論文の読解 ① | key words を用いて関係する英語論文を検索する方法が理解できる | | |
| 12 | 英語論文の読解 ② | それぞれの英語論文の形態、内容の構成が理解できる | | |
| 13 | 英語論文の読解 ③ | グループ演習：実際の英語論文を翻訳し、その内容を把握できる | | |
| 14 | 英語論文の読解 ④ | グループ演習：実際の英語論文を翻訳し、その内容を把握できる | | |
| 15 | 英語論文の読解 ⑤ | グループ演習：実際の英語論文を翻訳し、その内容を把握できる | | |
| 教科書 | 「言い出し表現」と「動詞フレーズ」で英語は2秒で話せる | | 履修条件 | 15回の講義なので、3回以上欠席すると定期試験を受験できない |
| 参考書 | 検討中 | | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|-------------------------------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 人間発達学 | 濱田 貴文 | 1 | 1 | 前期 |
| 授業概要 | 胎児から老年期に至るまでの心身の発達について理解することができるよう講義を行う | | | |
| 到達目標 | 出生から死に至るまでの心身の発達と変化，精神・心理面の成熟について理解し，人間の人間らしい「存在」について考察できるようになる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 人間発達学概論 | 人間発達学という学問についての理解ができる | | |
| 2 | 人間発達における各機能の発達について | 身体，姿勢・移動動作の中枢系の発達について理解できる | | |
| 3 | 目と手の協調の発達について | 目と手の協調発達過程について中枢神経の機能を基盤として理解できる | | |
| 4 | 認知機能の発達 | 認知機能の発達について理解できる | | |
| 5 | コミュニケーションの発達について | コミュニケーションの発達について理解できる | | |
| 6 | 社会生活活動の発達 | 日常生活における諸活動の発達について理解できる | | |
| 7 | 食事動作の発達 | 口腔機能，嚥下を中心に食事動作までの発達過程を理解できる | | |
| 8 | 排泄動作の発達について | 排泄行為の自立までの過程について理解できる | | |
| 9 | 更衣・整容動作の発達について | 更衣整容動作の発達について理解する | | |
| 10 | 遊びの発達について | 各発達段階における遊びについて理解できる | | |
| 11 | 発達の諸段階と発達課題① | 原始反射や姿勢反射について，中枢神経の発達をふまえて理解できる | | |
| 12 | 発達の諸段階と発達課題② | 中枢神経の階層性，両側大脳半球の機能統合と局在について理解できる | | |
| 13 | 発達の諸段階と発達課題③ | 青年期から成人期についての心身の発達について理解できる | | |
| 14 | 発達の諸段階と発達課題④ | 老年期についての身体機能の変化と精神発達過程について理解できる | | |
| 15 | まとめ | 発達過程の課題や特徴について理解でき，論じることができる | | |
| 教科書 | 人間発達学 標準理学療法学・作業療法学 | 履修条件 | 15回の講義なので3回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | ・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|-------------------------------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 医療倫理学 | 平塚 健太 | 2 | 1 | 前期 |
| 授業概要 | 臨床で求められる医の倫理感を身に着ける基礎となる講義を行う | | | |
| 到達目標 | 臨床における倫理観，マナー，常識を知り，理解できるようになる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | 医療の歴史 | 医療における倫理問題の提起 | | |
| 2 | 医療者と患者の関係 | パターナリズムとインフォームド・コンセント | | |
| 3 | 医療倫理と原則 | 研究と倫理，個人情報保護と倫理を含む | | |
| 4 | 生命誕生のあらし | 出生前診断，胚選別，妊娠中絶 | | |
| 5 | 生殖補助医療と親子関係 | 子供の知る権利について理解し，考えを述べるができる | | |
| 6 | 臓器移植と脳死， | リハビリテーションをいつまで続けるのかについて考えることができる | | |
| 7 | 人工臓器 | ES 幹細胞移植 iPS細胞の治療について理解する | | |
| 8 | 障害の受容 | 障害を受け入れる過程について理解する | | |
| 9 | 家族について① | 社会学に基づいた家族における人間関係に着目し，症例課題について考え自分の考えを述べるができる | | |
| 10 | 家族について② | 家族の患者受け入れについての症例課題に基づいて考えを述べるができる | | |
| 11 | 治療中止 | 患者の気持ちを慮りリハビリテーションの期限について考えを述べるができる | | |
| 12 | 死の受容 | 死にゆく患者についての理解を深める 死の受容の段階について | | |
| 13 | 救急医療，災害医療と倫理 | 突然発生する救急医療，災害医療上に発生する倫理について知る | | |
| 14 | 終末期医療，安楽死と尊厳死 | 終末医療と尊厳死について理解を深め，自分の考えを述べるができる | | |
| 15 | まとめ | 症例課題に基づき自分の考えをまとめ，述べるができる | | |
| 教科書 | 教養としての生命倫理 | 履修条件 | 15回の講義なので3回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|---|--|-------------------------------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| リハビリテーション概論 | 横山 寛子 | 1 | 1 | 前期 |
| 授業概要 | リハビリテーションの理念や歴史について、対象者や役割、職種間の連携などについて理解できるよう講義を行う | | | |
| 到達目標 | リハビリテーションの理念や歴史をふまえ、具体的な障害例に対する理学療法士や多職種のかかわりについて理解できる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | リハビリテーションとは | リハビリテーションの定義、目的等について理解できる | | |
| 2 | 障害とリハビリテーション | 国際障害分類(ICIDH)と国際機能分類(ICF)等について理解できる | | |
| 3 | リハビリテーションの概念 | トータルリハビリテーション、チーム医療等について理解できる | | |
| 4 | ノーマライゼーション | IL(自立生活)運動について理解できる | | |
| 5 | 地域リハビリテーション | 地域リハビリテーションについて理解できる | | |
| 6 | 理学療法学概論 | 運動療法と物理療法(温熱療法)等について理解できる | | |
| 7 | 作業療法学概論 | 機能的 OT, 自助具・装具, 職業前 OT, 心理的 OT 等について理解できる | | |
| 8 | 言語聴覚学概論 | 失語症, 構音障害(麻痺性・失調性), 嚥下障害等について理解できる | | |
| 9 | 自立支援 | 障がい者や虚弱高齢者の自立支援活動について理解できる | | |
| 10 | 就労支援 | 稼働年齢の対象者に対する支援活動について概略を理解できる | | |
| 11 | 脳卒中のリハビリテーションについて | 脳卒中のリハビリテーションについてについて理解できる | | |
| 12 | 脊髄損傷のリハビリテーションについて | 脊髄損傷のリハビリテーションについてについて理解できる | | |
| 13 | 精神疾患のリハビリテーションについて | 精神疾患のリハビリテーションについてについて理解できる | | |
| 14 | 癌のリハビリテーションについて | 癌のリハビリテーションについてについて理解できる | | |
| 15 | 老年期および小児のリハビリテーションについて | 老年期および小児のリハビリテーションについてについて理解できる | | |
| 教科書 | PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 要点整理と用語解説 改訂第3版 | 履修条件 | 15回の講義なので3回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず, 予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|--|--|------|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| 理学療法評価学演習 I | 平塚 健太 横山 寛子 | 2 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | 評価は、効果的な理学療法を実施するうえできわめて重要な理学療法プロセスに位置づけられる。本科目では、評価の意義や目的、その一連の進め方について学習する。また、理学療法における基本的検査・測定技術である形態計測法、関節可動域測定法、筋力測定法、痛みの評価について講義および演習を通して習得する。 | | | |
| 到達目標 | 理学療法評価における各種検査・測定手技（形態計測、関節可動域測定、徒手筋力法、痛みの評価）を学び、その基本的手技を実施できるようになる。 | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | オリエンテーションおよび評価学概論 | 本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明、評価とは何かを理解できる | | |
| 2 | 一般的評価事項 | 問診・観察・面接（すべての始まり）を通して、「見立て」にはどのような情報が必要か理解できる | | |
| 3 | 形態計測 ① | 身長、体重、体格指数、四肢長、周径の計測を演習し、その正確な手法を習得し、測定値の臨床的意味について理解できる | | |
| 4 | 形態計測 ② | | | |
| 5 | 関節可動域総合演習 ① | 関節可動域（ROM）とはなにか、また、臨床におけるROMの情報（具体的な数値、抵抗感、end feel など）の重要性についても理解できる | | |
| 6 | 足関節の可動域検査 | 足関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、足関節のROM制限を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める | | |
| 7 | 膝関節の可動域検査 | 膝関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、膝関節のROM制限を引き起こす様々な疾患・障害（スポーツ障害も含む）について理解を深める | | |
| 8 | 股関節の可動域検査 | 股関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、股関節のROM制限を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める | | |
| 9 | 手関節の可動域検査 | 手関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、手関節の運動学的特徴とROM制限を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める | | |
| 10 | 肘関節の可動域検査 | 肘関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、肘関節の解剖学的特徴もふまえ、運動学的特徴とROM制限を引き起こす様々な原因について理解を深める | | |
| 11 | 肩関節の可動域検査 | 肩関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、肩関節の解剖学的特徴もふまえ、運動学的特徴とROM制限を引き起こす様々な原因について理解を深める | | |
| 12 | 体幹・頸部の可動域検査 | 体幹・頸部のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、測定に関わる多くの調整事項（代償運動の抑止など）についても理解できる | | |
| 13 | 関節可動域総合演習 ② | 様々な疾患・障害によるROM制限について、臨床的な視点を持って解釈できる | | |
| 14 | 痛みの評価 ① | 様々な痛みの種類、それらを引き起こす病態について理解できる | | |
| 15 | 痛みの評価 ② | 具体的な痛みの評価を演習・体験し、方法・手技を理解できる | | |
| 16 | 筋力検査総合演習 ① | 筋力とは何かを理解できる。また、関節運動と筋張力の関係、中枢神経や末梢神経（支配神経）と筋収縮の関係、筋収縮のメカニズムについて理解できる | | |
| 17 | 筋力検査総合演習 ② | 徒手筋力検査（MMT）の概略、臨床的意義について概略を理解できる。また、MMTに代わるデジタル式筋力計の利点についても理解できる | | |
| 18 | 足関節の筋力検査 | 足関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる。また、足関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める | | |
| 19 | 膝関節の筋力検査 | 膝関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる。また、膝関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める | | |
| 20 | 股関節の筋力検査 | 股関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる。また、股関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める | | |
| 21 | 手関節の筋力検査 | 手関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる。また、手関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める | | |
| 22 | 肘関節の筋力検査 | 肘関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる。また、肘関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める | | |
| 23 | 肩関節の筋力検査 | 肩関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる。また、肩関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める | | |

| | | | |
|------|--|--|--------------------------------|
| 24 | 体幹・頸部の筋力検査 | 体幹・頸部のMMT測定を演習し、手技を習得できる また、それらの筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める | |
| 25 | 筋力検査総合演習 ③ | 筋力低下を呈する様々な疾患・障害について、臨床的な視点を持って解釈できる | |
| 26 | 総合演習 ① | 形態計測、痛みの評価、関節可動域検査、筋力検査の総復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる | |
| 27 | 総合演習 ② | | |
| 28 | 総合演習 ③ | | |
| 29 | 総合演習 ④ | | |
| 30 | 総合演習 ⑤ | | |
| 教科書 | <ul style="list-style-type: none"> ・新徒手筋力検査法（第9版） ・運動療法のための解剖学的触診技術上肢 ・運動療法のための解剖学的触診技術体幹下肢 ・理学療法評価学（標準理学療法学 専門分野） | 履修条件 | 30回の講義なので、6回以上欠席すると定期試験を受験できない |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | |
| 備考 | | | |

| <input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 | | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | | |
|--|--|--|---|-----|
| 科目名 | 教員氏名 | 単位 | 配当年次 | 開講期 |
| コミュニケーション方法論演習 | 羽澤 晃士 | 1 | 1 | 後期 |
| 授業概要 | 現在はコミュニケーションの方法は多様化している。それぞれのコミュニケーション方法についての使用例から、さらに社会人としての伝達方法であるプレゼン、レポート、レジュメ作成までを理解し、実施できるよう学んでほしい（手紙の書き方も含める） | | | |
| 到達目標 | それぞれのコミュニケーション方法についての使用例から、さらに社会人としての伝達方法であるプレゼン、レポート、レジュメ作成までを理解し、実施できる | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1 | コミュニケーションツール ① | 様々なコミュニケーション方法について提示し、適用と適用外について述べる | | |
| 2 | コミュニケーションツール ② | 様々なコミュニケーション方法について提示し、適用と適用外について述べる | | |
| 3 | メールのマナー | Eメール、SNS等のマナーについて理解し、実践できる | | |
| 4 | 手紙の書き方 | 時節のあいさつを交えた社会人としての手紙の書き方を理解し、実践できる | | |
| 5 | 電話の方法 | 目上の人への電話でのあいさつの方法を理解し、実践できる | | |
| 6 | レポートの書き方 | レポートの書き方について理解し、実践できる | | |
| 7 | レジュメの書き方 | レジュメについての書き方について理解し、実践できる | | |
| 8 | プレゼンの方法 ① | プレゼンテーションの方法について理解し実践できる | | |
| 9 | プレゼンの方法 ② | プレゼンテーションの方法について理解し実践できる | | |
| 10 | 対人関係について ① | 社会人としての対人関係について理解し実践できる | | |
| 11 | 対人関係について ② | 社会人としての対人関係について理解し実践できる | | |
| 12 | 個人情報について | 個人情報について理解できる | | |
| 13 | 言葉遣いについて ① | クライアントとの対人関係を気付くための方法を理解し実践できる | | |
| 14 | 言葉遣いについて ② | クライアントとの対人関係を気付くための方法を理解し実践できる | | |
| 15 | まとめ | 講義の振り返り | | |
| 教科書 | 資料を配布する | 履修条件 | PCを使用する 15回の講義なので、6回以上欠席すると定期試験を受験できない | |
| 参考書 | 検討中 | 留意事項等 | できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと | |
| 成績評価 | ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる | | | |
| 備考 | | | | |